

おとうさんのきいろいチャーハン

石井 朱音

わたしがまだようちえんにいたときはなしです。

「だれのおとうさん？」

ようちえんで、おともだちがおとうさんにききました。

「いしいあかねです。」

と、おとうさんはこたえました。

わたしはいつも、ようちえんバスか、おかあさんのおむかえでかえっていました。なのにおとうさんがむかえにきたので、わたしはびつくりしていそいでくつをはきました。

そのまえのひのよる、おとうとのともきがコンコンとせきをしていました。あさになってもきつそうだったので、おかあさんがびょういんにつれていきました。ともきははにゅういんすることにまりました。ともきはひとりでにゅういんできないので、おかあさんがついていることになったのです。

そのあいだ、わたしはおとうさんとふたりでいることになりました。

わたしのおとうさんは、ときどきこわいし、ごはんをつくったりはしません。みんなのためにおしごとをしているのでかえってくるのもおそいです。いつもわたしがねたあとにか

えってきます。

でも、ともきとおかあさんがいないあいだ、おとうさんはやさしくしてくれました。そうじをしたり、かたづけをしたり、あらいものをしたり。おとうさんは、おかあさんのかわりになってくれました。

おとうさんはあさごはんにきいろいチャーハンをつくってくれました。たまごとにんじんのチャーハンです。にんじんはこまかくきってありました。おかあさんがつくるチャーハンとちがったけど、すごくおいしかったです。おいしくてたまりませんでした。おかわりしました。

ともきとおかあさんがいなくてちよつとさみしかったです。でもおとうさんがいたからだいじょうぶでした。ごはんもおいしくたのしくたべられました。

おとうさん、いつもわたしたちのためにおしごとがんばってくれてありがとう。おとうさんのチャーハン、とてもおいしかったですよ。こんどは、わたしもいっしょにつくるからね。

おとうさん、だいすきだよ。